

幼小接続でつなぎたいもの

～子どもの思い、教職員の願いを大切に～

子どもは、幼児期に遊びの中でたっぷりと学んでいます。子どもの育ちを理解し幼児期
 するためには、幼稚園・保育所(園)・認定こども園等と小学校とが「接続」を意識して

の教育と小学校の教育を「つなぐ」ことが大切です。
 連携し、共に取り組むことが重要です。幼小接続で「つなぎたいもの」は何でしょうか。

2020年代を通じて目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿

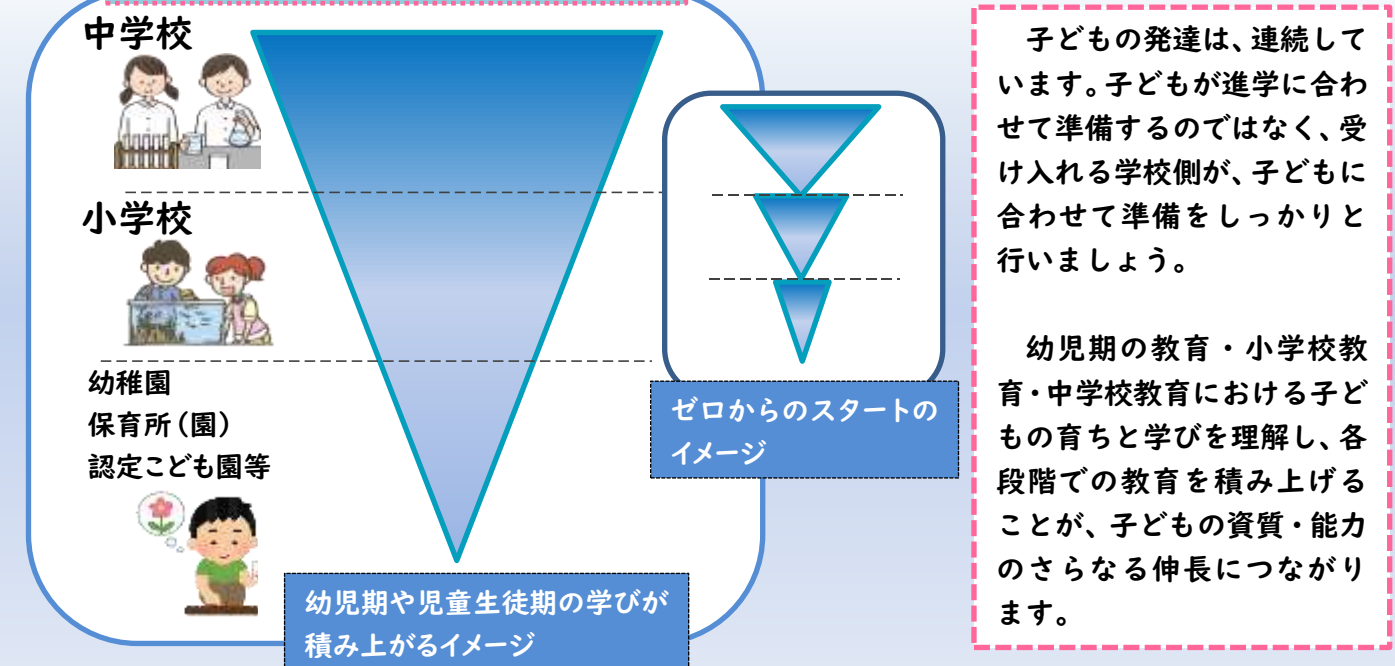
全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

●幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進

- ・幼児教育施設で育まれてきた**資質・能力**を小学校教育を通じてさらに伸長していくためには、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりに、幼児教育施設と小学校の教職員が子供の成長を共有するなど連携を図るとともに、小学校では**スタートカリキュラム**も活用しながら幼児教育と小学校教育との**接続の一層の強化**を図る必要がある。
- ・幼児期から小学校への教育的なつながりを確保するためには、園長・校長のリーダーシップの下、**幼児と児童の交流**だけでなく、幼児教育施設と小学校の教職員が、**両者の教育について理解**を深め、また、両者が抱える**教育上の課題を共有**しておくことが重要であり、幼児教育施設と小学校の教職員の合同研修等の継続的な実施や、人事交流、相互の派遣研修等の推進が必要である。

抜粋「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)文部科学省中央教育審議会(令和3年1月)

ゼロからのスタートじゃない!



幼小接続でつなぎたいものは、何ですか?

●考えてみましょう。事例:「大人の評価観の違いに戸惑う」

園では・・・

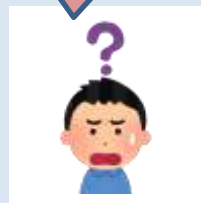
深い穴が掘れたね。友達と仲良く遊べたね。



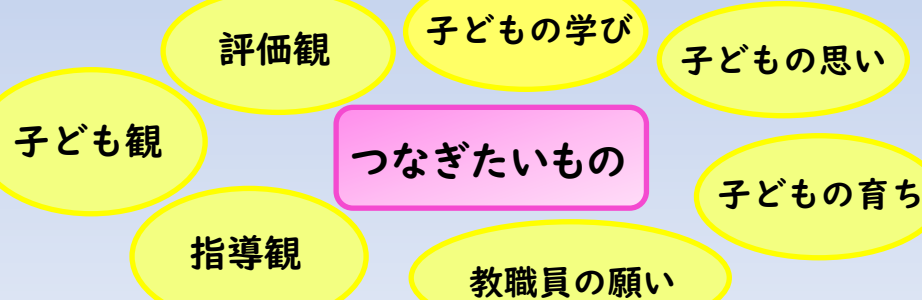
小学校では・・・

そんな深い穴を掘って先生に叱られない? 埋めておいてね。

どっちなの?



評価観をつなぐことで、子どもの戸惑いはなくなり、伸び伸びと自己発揮できます。



幼児と児童双方にとって互恵性のある交流活動について考えてみましょう。

福知山市立 昭和幼稚園の実践

幼小接続で何をつなぐべきかを考えて、小学校との連携活動に取り組んでいます!

① まずは必要。活動計画!
 「初めてだけどやってみよう」新しい視点やチャレンジを取り入れて
 ・活動形態は?
 ・幼児の思いは?
 ・園と校の教職員の打ち合わせを大切に

② 令和2年度の交流活動 コロナ禍でも!
 昭和小学校1年生と合同遠足 ~秋見つけ~

③ 活動後は振り返り
 「やさしくしてもらったおれいのがみをかきたいな」(幼児)
 「小学校の先生が児童の主体性を尊重し思いや発想を受容していることが分かった」(教員)

④ 今後に向けて
 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼小共通の視点で丁寧に協議をし、ねらいを明確にした意義深い交流活動にしていきたい。

小学校は **スタートカリキュラム** に生かす
 教育との接続の一層の強化
 主体的な心
 つなぎたい

① 事前に園と小学校の双方のねらいを理解し合しましょう。
 ② 交流中は、互いの子ども観・指導観等について、先生同士も交流しましょう。
 ③ 事後には、先生同士も振り返る機会を持ちましょう。
 ④ PDCAサイクルをまわしましょう。

注:「幼小」は、幼稚園・保育所(園)・認定こども園等と小学校を表しています。